



洋画『こまつの原風景～新保甚平作品展～』から  
**「水門」**(150号、平成18年作)

=平成22年2月小松市役所1階エントランスホールで開催された。

新保甚平氏は小松市在住の洋画家で61歳。新制作協会会友、日本美術家連盟会員。平成10年文化庁在外研修員として渡伊するまでは、故郷の水門のある風景などをよく描いていた。悠久な自然の水の流れと人工的な水門との接点に自らの心象風景を重ね合わせ追求してきた。

俳句　連なる空  
堀　政尋  
(金沢市)  
世界はも連なる空やいかのぼり  
初氷踏絵のごとく渡りけり  
反骨をつらぬき通し冬桜  
菓子箱にとりどりの春並びけり  
此岸から彼岸は近し鐘の音  
遺伝子の我也重なる吾亦紅  
万緑や核なき地球家族とや

事務局日誌

「愛」について広辞苑をひもといてみると、恋愛、敬愛、慈愛、友愛、情愛、仁愛など名前のある愛が列記されています。キリスト教では「神が人類に幸福を与える」とことと愛を解いています。下世話にいえば「あるものにひきつけられて、それを慕い、あるいはいつくしみ、かわいがる気持ち」であるとされています。

私はことし米寿を迎えた老  
人ですが、私の生家は伝世七  
百年の「村長精神」の伝統を  
保持する村肝煎役家の一人息  
子として育てられました。幼  
年期から青年期にわたる十数  
年間は、三人の「花街の母」  
に仕えるという極めて数奇な  
生活を送る中から、知らずし  
らずのうちに「名前の無い愛」  
に支えられてきたのかな：と  
感じています。即ち

茶屋街竹琴（＝現志摩）芸妓  
きく様、十歳から十三歳まで  
はにし茶屋街数々とみ  
美芸妓小六  
様です。

私の愛に対する考え方には、  
こうした幼年期から青年期に  
かけての、何とも訳の分から  
ぬ親子愛とも感じられない孤  
独感から芽生えたのではない  
かと思われるのです。

私は、十歳の正月の頃でし  
た。小学生の私にとつて思ひ  
もよらぬ大事件が起こつたの  
です。それは、本当の母だと  
思つていた母から、とんでも  
ない言葉を浴びせられたので

す。「私はお父さまに惚れて、この家に嫁に来たので、茂雄を育てるために来たわけじゃないから、自分のことは自分でしなさい」という小言でした。とても怖かったので、八十七歳になつた今でも、それを言われた部屋の場所まで詳細に覚えていてます。

それは小学四年生の私にとって、残酷で悲しい小言でした。このような体験が、かえつて私の今日の強い人間にしてくれたのではないかと、三人の

私は、人から喜ばれることに喜びを感じるよう、極くありふれた「名前の無い愛」こそが、現今のような義理人情感の薄れた社会風潮に必要な愛ではなかろうかと考えています。そして師や目上の人を敬い、真理を尊ぶ感情が清らかな「愛」であり、これを万人に及ぼすことこそ理想であると愚考しているのです。

(世界連邦運動協会石川県  
連合会理事・白山市)

名前の無い愛に生きたい

加賀藩千石肝煎役家多川家十三代

多川  
茂雄



米寿を祝う会場での筆者

**編集後記**  
俳句を詠んでいる、ある高齢婦人が最近句が作れなくなりましたと話してくれた。同じ程高齢の俳人堀政尋さんは、今号に掲載の「連なる空」七句を楽しんで作りましたという。見つめ世界が宇宙で広がれば感興は自ずと、時空を超えて新たに異なるのかも。「津幡町と万葉集」は特異な一文だが、故郷が大好き、人間が大事との熱い思いが込められています。世界連邦運動に関心を寄せる人が一人でも増えてくれれば本望です。(S)